

総合安全保障研究科前期課程第14期学生 選抜筆記試験問題

国際関係論

次の2問に答えよ。

- 問1 近年の国際関係における重大なできごとに、いわゆる「中国の台頭」がある。「中国の台頭」をめぐる国際関係のこれまでの展開と今後の展望について、下に挙げた国際政治学の諸理論から任意の二つを選択し、それぞれの理論の概要を説明した上で、それぞれの立場からどのような議論ができるかを考えて記述せよ。記述は、選択したそれぞれの理論について別々に行うこと（ある理論を用いた議論を行う際に、他の理論を援用することは可）。
- －勢力均衡論
 - －力の変遷（power transition）論
 - －覇権安定論
 - －相互依存論
 - －国際レジーム論
 - －デモクラティック・ピース（民主主義諸国間の平和）論
 - －核戦略論・核抑止論（いずれかに絞った議論でも可）
 - －非伝統的安全保障論

- 問2 前ブッシュ政権期に発表された「ブッシュ・ドクトリン」について論述せよ。

国際政治史

次の2問に答えよ。

- 問1 1970年代における日・米・中、三国間の関係の展開について、それぞれの二国間関係相互の関連を意識しながら、論じよ。
- 問2 ソ連でペレストロイカが開始された原因としては、少なくとも二つの相反する見解がある。それらを提示した上で、自分の見解を述べよ。

公共経済学

次の2問に答えよ。

問1 日本の予算制度の概要、及び予算策定プロセスの特徴を記述し、もしあれば問題点を述べよ。

問2 投票者の選好が単峰型でないときには、多数決原理は機能しないという「投票のパラドックス」が生じるとされる。

今、個人A、B、Cの3人で構成される社会を考える。各個人が、X（高水準）、Y（中水準）、Z（低水準）の選択対象に関し、各々、個人A： $Y > Z > X$ 、個人B： $Z > X > Y$ 、個人C： $X > Y > Z$ の選好順序を持っているとする。また、各個人は、選好順位が高い方に投票するとする。この時、「投票のパラドックス」が生じることを説明せよ。

憲 法

次の2問に答えよ。

問1 諸外国において、軍人の基本権の保障については、その職務の性格上、一定の制限が課される場合が多い。たとえば「表現の自由」については、義務兵役制をとる国であっても、兵役中この権利が制限される旨憲法が定めることがある（例：ドイツ基本法第17a条）。志願兵制をとる日本の自衛隊において、自衛官の「表現の自由」は、どのような目的のために、どの程度まで制限されるべきと考えるか、論じなさい。

問2 日本国憲法は、内閣、内閣総理大臣および行政各部の間にどのような行政組織上のルールを設けているか、整理して説明しなさい。また、そのような憲法上のルールが、現在の安全保障関連法律のなかにどのように反映されているか、具体例を示しながら説明しなさい。

国 際 法

次の2問に答えよ。

問1 人権保障に関する国際法上の諸制度について説明しなさい。

問2 条約の解釈における「事後の実行(subsequent practice)」と「準備作業(preparatory work)」の意義について論ぜよ。

組織管理論

次の2問に答えよ。

問1 いわゆる「天下り」といわれる組織現象について、組織論の観点から論評せよ。
論述に際しては、当該領域で用いられている概念、枠組み、理論モデル等を縦横に駆使して、可能な限り詳細に記述する。

問2 組織において重要と思われるリーダーの役割をいくつか列挙し、なぜ重要と思われるのか理由を説明しなさい。次に、リーダーが権威をもつ（部下がリーダーに従う）のはなぜか、リーダーがもつ権威の源泉・背景は何なのか、考えを述べなさい。最後に、リーダーシップ・スタイルの有効性にかかわる状況要因をいくつか挙げ、どのような状況においてはどのようなリーダーシップ・スタイルが有効となるのかを議論しなさい。論述にあたっては、根拠となる理論・学説を紹介するとともに、具体例を示してわかりやすく説明すること。

行政学

次の2問に答えよ。

問1 日本の中央省庁における予算編成のプロセスを詳しく説明した上で、通常の政策決定や意志決定過程と比較しつつ、その特徴について詳しく説明しなさい。

問2 日本の中央省庁における意志決定方式の特徴として「稟議制」が挙げられることが多い。まず、「稟議制」について説明し、次に、それが日本の中央省庁における意志決定の実態を示すものとして適切であるかどうかを論じなさい。